

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1770200309		
法人名	特定非営利活動法人 ひかり		
事業所名	グループホームひかり 6人棟		
所在地	石川県七尾市田鶴浜町る部88の1		
自己評価作成日	平成30年3月14日	評価結果市町村受理日	平成30年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 寺井潔ソーシャルワーカー事務所		
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号		
訪問調査日	平成30年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成28年8月より各ユニットに管理者を配置し業務を行っていくスタイルに全職員もかなり馴染んで日々業務を行っていると感じています。ユニットごとの特色も少しずつではありますが生まれてきており、より個別ケアに力を注げる体制が整いつつあると考えています。引き続き四季折々の行事や食事に気を配り季節の変化を感じて頂けることを第一に考え、また理念に掲げている「年老いて病んでも普段どうり暮らしませんか」を個々の生活に合わせて実践していけるよう支援を行っていきたく考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「年老いて病んでも普段どおり暮らしませんか」を念頭に入居者様も役割を持って自分で選択し一日やりたいことを決め自分らしく落ち着いて生活出来るよう支援しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物は近くのスーパーを利用しています。町内会の行事やゴミ当番には継続して参加させていただいており野菜やお花等のホームへ差し入れも定期的に見られています。また運営推進会議に班長様や町会長様に参加させていただいておりしっかり交流は図れていると考えています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の方が多く入所しており、介護相談や施設内見学等を常に行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所や社協の方々ご家族様に取り組みについて報告を定期的に行っています。テーマによっては入居者様の参加もあり参加された方々からは施設の活動に対し様々な意見をいただいております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム内の情報はグループホーム便りや待機者名簿を市の介護保険課に、お便りを地域包括支援センターに配布させていただいています。また定期的に開催される市が主催の事業者連絡会にも参加させていただき他の事業所や市の職員の方々と意見交換を行っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしないケアを目指して」の指針に基づき職員は内容を確認しながら日々のケアに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の職員研修時に常に話し合い高齢者虐待や入居者の方々の心のケアの方法を学んでいます。施設内では言葉の暴力等を早期に見出し改善、防止に取り組むことができています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、入居者の方で権利擁護1名、成年後見制度1名の利用があります。職員は定期的に研修に参加できておりパンフレット等を活用し常に職員室にて閲覧できるようになっています。今後は利用を検討している方々に適切な提案が出来るよう全職員の知識の向上を図りたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前はご自宅へ訪問しご本人の生活状況や身体状況ご家族の思いをしっかりと把握したうえで施設の説明を行いご家族やご本人の疑問点をしっかりと解決し契約をおこなっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	季節のイベントや定期的な面会等でご家族様が来訪された時には要望をお聞きし対応できることは日々のケアに反映させています。また入居様自身からの要望が聞き取りやすい様マンツーマンで対応できる機会を設け出来る限り日々の生活の向上につながるよう心掛けています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にスタッフ会議を設け、話し合う議題に対しそれぞれの立場での意見を出していただいています。また必要があれば代表者や管理者との話し合いの場も設け運営に反映出来るよう努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は残業をしない仕事のやり方を強く指導し定時帰宅がほぼ実現できています。職員と入居者の方々が共に作り上げていく施設を継続するのに始業時間や終業時間も個々のライフスタイルに少しでも合わせられるように改善し業務に対して意欲が向上する取り組みも実施できています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に開催される事業者連絡会にて行われる分科会の勉強会やその他の外部研修の機会を利用しそこで得た知識を施設内の勉強会にて発表し知識の共有に活かしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な勉強会や市主催の事業者連絡会、運営推進会議を通じて他事業所との交流は図れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は不安も多くあり落ち着かれないのでそばでなるべく話を聞くように心掛けています。また数日間は環境に慣れるまで出来るだけ寄り添う時間を多く持ち出来ること出来ない事を観察し今後の支援に活かせるよう心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面会時にはその都度ご本人の状況の説明や不安な様子が見られる時の解決のヒントをお伺いしご家族が感じる不安な点も細かく説明している。また毎月グループホームのお便りを送付し普段の生活の様子を少しでも分かりやすくお伝えするように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接や入居後において不定期にご本人やご家族にヒアリングを行い支援を継続して行くうえで必要と思われた時は他の公的サービスや利用できる社会資源の検討を行い適切な支援が受けられるよう対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	対人援助を行うプロフェッショナルとしての意識をしっかりと持ち、認知症の人達が日常生活を営む上で共通の知識のもと一方的に行う支援にならないよう配慮し業務にあたっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所申し込み時から共に考えていける関係性を築いていけるように努めています。施設だけでは支えていけないこともあり可能な限り協力していただけるように働きかけを行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に住んでいた地域との関係継続が大切と考え、ご家族様の協力を得て馴染みの店や美容院等の外出支援、交友関係の継続に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活を送るうえで食事の配膳や下膳、下ごしらえ、食器洗い及び片付け、外出で車椅子を押してもらおう等の相互の助け合いを大切にしたい支援が行えるように配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設より特別養護老人ホームへ入居した方が居られ退所後ご家族の許可を得て面会に行かせていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「ご本人はどうしたいのか？」を考えた支援を第一に心掛けています。意思表示の困難な方に対しては性格やご家族から得た情報を元にご本人主体となるような関わりが出来るよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の基本情報やケアプランをご家族の了解を得て前サービス提供者に情報開示していただき、それを個人日報に綴り全職員が把握できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は日々その方を知るためにひとり一人の一日のスケジュール、身体状況や出来ることの把握に努めています。ご本人の意思を確認しながら無理強いのない生活支援を実施しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の方やご家族の希望を伺い職員で話し合いケアプランを立案しています。ご家族様や主治医その他の関係機関とも密に連絡を取り相談を行っています。その情報を元にケア目標を立て実行したサービスに対しモニタリングを行い翌月に反映させています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や健康状態を個人記録に記載し大事な部分には色線を使い特記事項も細かく記入しています。記録の記述に関しては会議にて統一を図りより良いものになるよう話し合いを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族やその他様々な事情に応じて医療機関の受診同行、理美容室や外食、温泉の同行といった普段ご家族が対応できない外出の機会を設け対応させていただいています。ボランティアの来訪が少ないので活用の幅を広げていきたいと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーやコンビニ近所への散歩、町主催の観劇等のイベントのお誘いがあり参加させて頂いています。外出中ご近所の方から入居者の方に声をかけてくださる場面も見受けられます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の了承を得て隔週にて主治医に往診にきていただいています。往診時は看護師も同伴して下さっており休日や夜間でも迅速に対応していただいています。また専門医の受診が必要な時には紹介状の作成等適切に対応して下さっています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは往診前の状態の変化や相談したい内容をノートにまとめて見て頂いており助言等を共有できるようにしています。また電話でも気軽に相談できる関係作りに努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護記録や経過記録を提示し必要な情報を適切に開示しています。入院後の状況は病院のソーシャルワーカーと連絡を取りながら退院までの流れを作るように努めています。常にご家族様と連絡を取り合い関係性が途切れないよう可能な限り面会にいけるよう環境を整備しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームでの看取りの方針を提示し今後どのような形を望んでいるかを確認したうえで方向性を共有できるようにしています。ホーム、主治医、ご家族が同席し入居者の病状の確認を行き取りの同意書を交わしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成しており職員同士での申し送りはある程度できているが引き続き冷静に対応できるように緊急対応訓練を継続して行っていきたいと考えています。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	一般的な緊急対応マニュアルを作成し定期的に緊急対応訓練を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	日頃から支援体制は確保できています。協力医療機関や非常勤の看護師には常に連絡を取れるようになっており緊急時には相談できるようにしています。ただその他の医療機関や介護老人保健施設との緊急時の連携は十分とは言えません		
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	入居者6名に対して1名の夜勤者を配置しています。緊急時には町内在住の職員4名及び施設から1分の所に在住の管理者がすぐ駆け付けられる体制になっています		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急対応マニュアルが作成しており昼、夜間想定避難訓練を定期的に行っています。運営推進会議にて地域の方々への災害時の協力をお願いは常に行っており協力体制は構築できています		
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	非常時には非常通報装置にてボタン1つで代表者、管理者の携帯電話まで連絡が来るようになっていました。また緊急連絡網を作成しており定期的に連絡網を利用した訓練も行っています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や認知度、生活背景や状態を考慮しながら一人ひとりに即した話しかけや対応を行っています。成功事例や失敗事例を職員間で常に共有するようにしています。		
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の小さなことでも「何をしたいか」「何をするのか」の問いかけや自己決定の機会を持つよう働きかけています。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりごとは作らないようにし状況に応じて対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染の美容院への送迎や鏡を見ながらの髭剃り髪の毛を整える等の確認を行っています。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料を見て献立を一緒に考えたり下ごしらえや米研ぎ味見等を職員と行っています食後の茶碗洗いや茶碗拭きを自ら行ってくださる方もいます。		
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量は個別に記録し、状態により血移動を行ったり見守りしながら食事を一緒に行うようにしています。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前は口腔体操、食後はうがい、義歯洗浄、歯磨きを声掛け、見守りで行っています。夜間、義歯は洗浄剤を入れ一人ひとり管理しています。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄意を訴えない方は排泄パターンを職員が把握し声掛け誘導でトイレでの排泄を促しています。日々の記録は排泄チェック表に記入しています。		
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を排泄チェック表に記録し日常的には水分摂取量の確保や食物繊維の多い食材を取り入れるようにしています。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴の機会を設け希望によって入らない日、シャワー浴日と対応しています。温度、入浴剤、変わり湯、音楽等個々の好みに可能な限り対応し入浴中にお話を傾聴するなどコミュニケーションの場としても活用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡や就寝時間の決まりはありません。居間のソファに横になれる方もおり状態や意向に合わせています。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬剤情報によりお薬の目的や副作用、用法用量を理解し間違いなく服薬支援できるように努めています。服用により変化が見られれば記録し主治医に指示を仰ぐようにしています。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩やドライブは希望に添えるように支援しています。歩行が困難な方は車椅子で外出し温泉にも行かれています。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物、実家への訪問等希望に添えるよう支援しています。歩行困難な方は車椅子で出掛けておりご家族の協力も得ています。		
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理している方、施設でお預かりしている方ご家族が管理している方等ご希望やご本人の力に即した支援を行っています。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人への誕生日プレゼントのお礼や近況報告等極力ご家族と会話できる機会を作るようにしています。また手紙や年賀状ホーム便り(写真入)等にて定期的に交流を持つよう支援しています。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花(造花も)風景写真等季節を感じられるように配慮しています。ロールカーテンにて日差しの調整を行っており居室や共有空間には温度、湿度計を設置。食事時はTVを消し音楽を流し心地よく過ごせるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に座る場所は決めておらず個々で好きな場所で座っています。居間からは季節の草花、入居者の方々が自ら育てている畑も見渡せませす。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には新しい物ではなく馴染の物を持ってきて頂くようにしています。ベッドやタンスの方向等今までの住まいと同じになるように設置の工夫も行っています。		
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の戸には目線に合った表札、季節を表す小さな飾り物をしています。またトイレの表示など分かりやすい様に明示しています。		